



社会医療法人協和会 社会福祉法人大協会 連携広報誌



むつごろう

Vol.114
.....
秋号



特集1 P.5~8

小児科

信頼を築き、患者さま親子に寄り添う医療を

● 各科診療医一覧表

特集2 P.9~

新型コロナウイルスに立ち向かう

P.10~12

運営・治療

医療現場、戦い続けた500日

P.16

感染防止対策室 編

P.13~15

看護

特集1

.....
5
8

● 活動報告

.....
3
4

● 医療界への提言

.....
2

● 理事長メッセージ

.....
1

もくじ



ご自由にお持ち帰りください

理事長
メッセージ

日本の医療界発展のために

社会医療法人協和会 理事長 加納 繁照

コロナ禍の2021年夏、賛否両論のある中で1年遅れとなる東京オリンピックが無事開催され、日本選手団が獲得したメダル数は58個、その中で金メダルは27個という快挙を挙げました。この喜ばしい出来事の一方で、オリンピック前から変異型ウイルスが猛威を振り第5波が到来、急峻な感染者数増加で病床が極めて逼迫する事態となっています。加納総合病院では、昨年4月から大阪府下の民間病院では最初にコロナ患者の受け入れを開始し、重点、並び協力医療機関としてコロナ対応を行い、延べ2,500人の入院受け入れを行ってきました。7月からは中等症・重症を院内において、一体的に治療することが可能な医療機関として「中等症・重症二体型病院」での対応を行っています。長引くコロナとの闘いとなっていますが、社会医療法人としての使命や、地域の医療を守るといふ使命を高く掲げ続けてきたことで、職員一丸となって難局を乗り切ることができたのだと考えています。

また、地域医療を守るこの一つとして、将来を支える子供たちの医療を支える必要があると考え、4月から小児科は常勤医師による診療を復活させました。着任された真鍋理恵先生は経験豊かなベテランの先生で、ひたむきに耳を傾けてお子さま、親御さまの声を聞いて診療する先生です。お子さまの健康について、間口を広げた「相談外来」も開設しました。お子さまの健康について不安に感じる事があればお気軽にご相談下さい。

またこの度、4月23日、田村憲久厚生労働大臣より、多年にわたり医療事業の発展向上に寄与され、その功績は誠に顕著なものがあるという事で、表彰状を授かりました。これも私のみならずグループ職員全員にいただいた表彰だと考えております。今後も職員と二丸となってその使命を全うすべく頑張つてまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

表彰状

加納 繁照 殿

あなたは多年にわたり医療事業の
発展向上に寄与されその功績は
誠に顕著なものがあります
よってここに表彰します

令和三年 四月 二十三日

厚生労働大臣 田村 憲久



新型コロナ禍における地域密着型民間病院の活躍

社会医療法人 協和会 理事長 加納 繁照

新型コロナウイルス感染症第5波を迎えて、全国の医療現場で凄まじい総力戦が行われています。大阪における第4波の状況が東京を中心に全国に広がった感があります。その中でも民間病院の活躍には目を見張るものがあります。東京都病院協会会長で東京都医師会副会長の猪口正孝先生は、東京全体の医療への指示も的確に行いながら、自院の医療法人直和会平成立石病院を中心とする自らの病院グループ総がかりでコロナ患者の対応、受け入れを行い、かつ東京2020オリンピック、パラリンピックの医療支援もしっかりとなされておられます。これらの民間病院の努力がもし無かったらと思うと恐ろしくなります。

新型コロナウイルス感染症に関しては、今後のワクチン接種の推移によって状況は変わってくると思われますが、これからの冬場に備えて、しっかりと更なる医療体制の構築とワクチンの3回目(ブースター)接種や治療薬の開発、使用を含めての対策が必要であるかと思えます。

今回、全国の社会医療法人、とりわけ救急医療等確保事業の認定要件での二次救急病院の活躍は素晴らしいものがありました。特に大阪では、率先してコロナ患者を受け入れ、かつ同時にその十倍近く存在していた一般の普段の二次救急患者を完全に受け入れ、地域における医療崩壊を防いだのです。このことはマスコミ等で報道されず、世間ではあまり知られていませんが、実に日本が世界に誇るべきことだと思っております。日本ではコロナ禍で日本の病院の8割を占める民間病院が、もの見事に役割分担を果たし、その結果は、新型コロナウイルス感染者総数、死亡数、死亡率を含めた世界最少レベルで頑張れた実績が示していると思われます。今後、欧米が今回のこのコロナ禍で露呈した急性期病床の過剰な集約化と、巨艦主義での急性期病院の巨大病院化を要因とする感染拡大、爆発をきっちり検証し、また、日本でも病床数が多い病院がコロナ患者の引き受けを行ったか否かの見直しを含め、精緻な検討をしていくことが大切かと思われます。アフターコロナでは、早速すぐに高齢者医療が待ち構えています。今後起こり得る新興感染症対策と、2042年まで増加が進む高齢者医療の対策にしっかり対応を行い、「地域密着型の民間病院が守る地域医療の実践」を進めてまいりたいと思えます。

活動報告

日本医師会、各病院団体と連携し、コロナ禍における地域医療の安定にむけた活動や、マスコミからの依頼に対する新型コロナ報道への協力、日経セミナーでの講演など、新型コロナ診療と併せて多方面へ積極的に発信しました。その一端をご報告させていただきます。

新型コロナウイルス感染拡大による病院経営状況の調査を病院団体として数回にわたり実施、国への支援を要請しました

令和2年 5月18日 記者会見



病院団体、日本医師会の代表者と共に令和3年1月14日、8月3日の2回にわたり首相官邸を訪問し菅内閣総理大臣、田村厚生労働大臣、西村新型コロナ担当大臣と会談を行いました

令和3年 8月3日 菅内閣総理大臣、田村厚生労働大臣、西村新型コロナ担当大臣と会談



※奥中央が菅内閣総理大臣、左が田村厚生労働大臣、右が西村新型コロナウイルス感染症対策担当大臣、左手前が拙者

令和3年3月24日に衆議院議院厚生労働委員会における改正医療法の審議が行われた場に参考人として招かれ、意見陳述を行い、出席した国会議員からの質問に答えました



日本経済新聞社企画の「日経健康セミナー21」で3回にわたり アフターコロナも見据えたテーマで講演を行いました

- 第1回 令和2年 9月 7日 テーマ さまざまな社会情勢の変革に対応する病院経営の立て直し
- 第2回 令和3年 2月10日 テーマ ケアミックスを考える病院が今取り組まねばならない課題とは
- 第3回 令和3年 9月10日 テーマ 大きく変化するマーケットに対応できるケアミックスとは

日経スペシャル
健康セミナー21
医療・介護マネジメント最前線 Vol.17

病院経営に 新たな未来を!

2022年診療報酬改定を予測する

本セミナーは医療機関の経営者・従事者、医療関連事業者・コンサルタントおよび
医療を中心に集客施設などの不動産活用を検討される自治体・事業者向けの専門セミナーです。

主催/日本経済新聞社 協賛/大和ハウス工業

2021年 **9月10日[金]** **11日[土]**

Webセミナー 2日間、記載時間に同じ内容で配信します。

受講者募集 受講無料

①10:30~11:00 **プレゼンテーション1**
大和ハウス工業が手掛けた開発案件
～シムバーエッジ研究所が目指す地域に貢献する都市開発事例～
プレゼンター：大和ハウス工業 シムバーエッジ研究所

②11:10~12:00 **講演1**
2022年診療報酬改定を
予測する
中林 梓氏
ASK研修センター 代表取締役
一般社団法人 日本医療経営学会 理事

③13:00~13:50 **講演2**
大きく変化するマーケットに
対応できるケアミックスとは
加納 繁照氏
一般社団法人 日本医療経営学会 会長
社団法人 医療法人 加納総合病院 理事長

④14:00~14:30 **プレゼンテーション2**
地域に根ざした病院の取り組み事例
～シムバーエッジ研究所の施設ソリューション～
プレゼンター：大和ハウス工業 シムバーエッジ研究所

⑤14:40~15:30 **講演3**
これからの病院経営における
よい病院・選ばれる病院とは
武久 洋三氏
一般社団法人 日本病院協会 会長
理事長 武久 洋三

⑥15:40~16:30 **講演4**
withコロナ、afterコロナの
医療展望
神野 正輔氏
一般社団法人 日本病院協会 副会長
社団法人 医療法人 加納総合病院 理事長

応募方法 2021年8月23日(月) 当日昼間分

インターネットの場合は、URLへアクセスして必要事項をご記入の上、お申し込みください。FAXの場合は、郵便番号、住所、氏名、企業・団体名、部署・役職、
電話番号、メールのアドレスをご記入の上、お送りください。日経健康セミナー21スペシャル医療・介護マネジメント最前線Vol.17(第1回)にお送りください。

インターネット <https://events.nikkei.co.jp/38804/>

FAX 03-3545-6993

日経健康セミナー21スペシャル事務局 TEL.03-3545-2516(10:00~18:00 土、日、祝日も可)

新型コロナウイルス対応、特に4月中は第4波における民間病院としてのコロナに対する積極的かつ懸命な活動や、従来からの災害に対する取り組みの取材協力を行い、テレビ放映を通じてお伝えしました

- 令和3年 1月17日 番組名 NHKスペシャル「巨大地震と“未治療死2”～阪神・淡路から26年 災害医療はいま～」
- 令和3年 2月 2日 番組名 毎日放送ミント
- 令和3年 4月15日 番組名 関西テレビ「めざまし8」
- 令和3年 4月16日 番組名 毎日放送「あさチャン!」「NEWS23」
- 令和3年 4月16日 番組名 TBS Nスタ
- 令和3年 4月18日 番組名 フジテレビ Mr. サンデー
- 令和3年 4月30日 番組名 関西テレビ「めざまし8」
- 令和3年 4月30日 番組名 読売テレビ よんちゃんTV

※NHKスペシャル以外は、新型コロナウイルス感染症診療現場の報道です

NHKスペシャルより一部抜粋

コロナ対応報道番組より一部抜粋

コロナ対応報道番組より一部抜粋

4

信頼を築き、患者さま親子に
寄り添う医療を

特集1 小児科

インタビュー

社会医療法人 協和会 加納総合病院
小児科 医長

真鍋 理恵先生

interview

Rie Manabe M.D.

加納総合病院では今年4月より小児科に常勤医が就任。診察日時が増えました。今回は就任された真鍋先生に、ご自身のお話やこれからの小児科医療について伺いました。

未来ある子どもの手助けをしたい

最初に真鍋先生のお話を少しお聞かせください。小児科医を目指したきっかけは？

実は私、小児科医になる前は作業療法士として働いていました。そこで、チーム医療の必要性や難しさを知り、自らがリハビリテーションの専門医を目指し、医学部に進学しました。

ところが、大学5年次に受ける臨床実習で最初に回ったのが小児科で、すぐに緊急帝王切開に立ち会う機会があり、1,200グラムほどの小さな赤ちゃんと出会いました。小さいながら一生懸命生きようとする姿に心を動かされました。進路を決める際、未来のある子どもたちの手助けする仕事に就きたいと思うようになり、小児科を選びました。

卒後の後期研修は私の地元・徳島の市民病院でお世話になりました。厳しい先生方でしたが温かい方ばかりで、とても熱心に指導していただきました。徳島には基幹病院が少なかったこともあり、患者数が多くて本当にいい勉強になりました。

実際に小児科医として働き始めて、いかがでしたか。

最初はぐずる乳幼児相手に聴診するのも一苦労でした。泣き声で呼吸音が全然聞こえない。咽喉もなかなか見せてくれない…。そんな泣きじゃくる乳幼児の診察をスムーズにこなす指導医の診察をみて、本当にこのような診察ができるようになるのかと戸惑った覚えがあります。また小児科の場合は会話が十分できない年齢のお子さまも多いので、その保護者の方から診療に必要な情報を得なくてはなりません。治療対象となるお子さま

のみならず、その親御さまともしっかりとした信頼関係を結ぶことが治療には必要不可欠であると認識させられました。経験を重ねた現在は、診察室に入ってきた時からお子さまの状態や

顔色、手足の状態など確認してからお話を聞き、診察するよう心掛けています。研修医のころから比べると自分なりに成長しているとは思いますが、それでもまだ不十分な点もあると思います。そのためにも日々の診療を大切にし、足りない部分を補い、更に信頼される小児科医へと成長していきたいです。

真鍋先生が小児科医として一番大事にしていることは何でしょうか？

患者さま主体に医療をすることです。患者さまにとって一番良い医療は何かを常に考えるようにしています。

縁があつて治療することになったお子さまに対し、できるだけ症状を和らげてあげたいという思いが常にあります。また、親御さまも含めたご家族の「安心安全」も大切に考えています。親御さまから「今日は落ち着いていました」「顔色が良くなってきました」とご報告いただくと本当に安心します。



相談外来の新設で 子育てをサポート

加納総合病院には今年4月に赴任されましたが、経緯をお聞かせください。

5年ほど前に夫の転勤で大阪に来ました。いくつか違う病院でお世話になりましたが、ご縁があつてこの4月から加納総合病院の小児科に常勤として勤めさせていただいています。

これまで当院の小児科には常勤医がおらず、週に3日、午前中という診療形態でしたから、来院されるほとんどのお子さまが予防接種のためだったと聞いています。病院周辺は住宅も多く、小さなお子さまもたくさん住まわれているので、今はまだ認知度は低いと思いますが、少しでも周辺住人の皆さまのお役に立てればと考えています。

総合病院における小児科の利点というのはどんなところでしょうか。

一番大きなメリットは他科と連携ですね。小さな子を抱える親御さまは、お子さまの異変に気づいたら、まず小児科を受診さ

れることが多いです。小児科で診療できることもあれば、他科を受診されたほうがいいケースもあります。そういう連携がスムーズにできるのは総合病院の利点だと思います。子どもは耳や鼻、皮膚のトラブルが多く、以前勤めていた総合病院でも耳鼻科と皮膚科の先生にはとてもお世話になりました。親御さまからも、総合病院だと場所を変えずに続けて診てもらえるので助かるというお声をいただきます。

「相談外来」を新設された理由ですが。

はい。育児中はお子さまのことで何かとご不安もおありかと思えます。お子さまの健康や発達・発育に関することで気がかりなことがあつたとしても、「受診するほどじゃないかも」とか、「受診してもいいのかな」などと受診をためらわれるようなこともあるのではないのでしょうか。そのような場合でも気軽ににご相談していただきたいと思い、当院では間口の広げた「相談外来」を設けました。

お子さまのことで誰かに相談したいけれど、どこに相談していいかわからないという時にも気軽

にご相談いただける場です。病院は敷居を高く感じるかもしれませんが、話すことで解決の糸口が見つかることもあります。少しでも親御さまの不安を取り除き、普段の子育ての手助けができればと思っています。

親御さまとの 信頼関係も大切

真鍋先生は漢方薬の投与にも積極的だと伺いました。

通常の西洋薬を使った治療だけではなかなか症状が治まらないケースがあることをしばしば

経験しました。その中で既存の治療では咳がなかなか治まらない子や、喘息の発作回数が多い子などにたまたま勉強会で知りえた漢方薬を併用したところ、両者ともとても効果的に作用しました。その経験が漢方薬をもっと勉強し活用したいというきっかけになりました。

なんとなくだるい、体調がすぐれない、病院で色々調べても特に悪いところはないとかいうような「不定愁訴」的な症状にも漢方薬は効果があるといわれています。また体質改善にも用いられ



ることが多く、例えば冷えやすい子、お腹の調子が悪く便秘や下痢を繰り返すような子は、西洋薬で治療するというよりは、漢方薬で体質改善することが得策な場合があります。

必要に応じて漢方薬を使用することで、既存の治療のみではなかなか改善しなかった症状を軽減・消失できる可能性があります。そのためにもできるだけ漢方治療について丁寧に説明し導入できればと思います。

親御さまの反応は？

最初は「漢方薬って苦いのでしょう？飲めないかも」と心配される方も多いです。しかし実際処方してみると思った以上に飲んでくれるといった印象があります。特に乳児期から飲んでいると飲むのに抵抗が少ないように思えます。親御さまも効果があることを体感されれば、「また漢方を出してください」といわれることもあります。

小児科の治療は親御さまへの説明が大事になってきますね。

小児科では親御さまともしっかりとした信頼関係を結ぶことが治療には必要不可欠です。親

御さまが不安や不信感を抱いてしまつてはお子さまの治療にも影響してしまいますので、しっかりと話を聞いた上でご説明します。忙しいと急ぎがちですが、できるだけ落ち着いて対応するように心掛けています。

身近に寄り添う診療を心掛けて

御科での新型コロナウイルス感染症対策は？

コロナ禍というご時世の中、病院で長時間待つということには感染リスクも増えますので、患者さまの不安をなくすためにも予約制を導入しています。午前は

風邪ひきなどの一般診療、午後には予防接種や乳児健診、定期受診や相談外来をメインとしています。院内感染対策として診療内容を午前と午後で分けるよう配慮しています。早く世の中が落ち着いて、気軽に来院していただけるようになればと願っています。

最後にメッセージを

些細なことでも構いませんので、何かお困りごとがあったら気軽にご相談ください。地域のお子さまとご家族が安心して暮らせるよう、手助けできればと思っております。感染対策等のため予約診療となっております。ご面倒とは思いますがあらかじめ



プロフィール

社会医療法人 協和会
加納総合病院
小児科 医長
真鍋 理恵先生

[所属学会および認定]
日本小児科学会専門医

加納総合病院 小児科 診察日

午前 一般診療		9:00 ~ 12:30				
月	火	水	木	金	土	
真鍋	真鍋	真鍋	河村 ~11:45	真鍋	真鍋	
午後 予防接種 乳児健診		14:00 ~ 16:30				
月	火	水	木	金	土	
真鍋	真鍋	真鍋	—	真鍋	—	

※詳しくはホームページをご覧ください。
 ※木曜日は午前 11:45 終了です。
 ※月、火、水、金、土の午前は一般診療がメインとなります。アレルギーやその他の相談外来の初診も午前枠で行います。
 ※午後は予防接種、乳児健診、定期受診や相談外来となります。
 ※受診は予約制となりますので、あらかじめお電話にてお問合せください。



小児科待合室は空気清浄機を設置。安心して来院していただけるような環境を心掛けています。

めお電話にてお問い合わせください。
 たくさんのお話をありがとうございました。

新型コロナウイルスに 立ち向かう



昨年初から始まった新型コロナウイルス(Covid-19)感染症拡大。加納総合病院では、対応できる病院が少ない中、いち早く4月より「新型コロナウイルス感染症疑い患者受入協力医療機関」として対応を開始しました。第1波が終息しつつあったことから、むつごろう112号(2020年秋)で、特集医療最前線の戦い「いまできることを全力で」、として初めて体験した医療現場の取り組みをお伝えしたいと考え、7月から取材を開始し、発信させていただきました。しかし発行時には第2波が襲来、それから1年間、従来株が感染力の強い変異株に置き換わっていったことで感染が爆発的に拡大し、第3波、第4波と大変な状況に陥りました。本特集はワクチン接種が進み、第4波が収束しつつあったことから、私共医療従事者がこの1年間、新型コロナウイルスの診療に立ち向かってきた想いと、読者の皆さまに新型コロナウイルスの恐ろしさ、感染予防の重要性をお伝えしたいと願い、第4波までの総括として企画しました。しかし取材を開始後すぐに第5波がかつてない速さで広がってしまっています。

当院では昨年10月から「新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として診療体制を変更し、回復期リハビリテーション病棟1棟をコロナ病床として16床整備しました。第3波では1床を増床、第4波では重症病床が満床となったことで、オーバーベッドになりながらも重症患者の入院治療に当りました。さらに大阪府からの要請を受けて、中等症・重症を院内において一体的に治療を行う「中等症・重症一体型病院」として対応を行っております。

加納総合病院は、年間5,000台以上の救急搬送を受け入れておりますので、地域の中核病院として引き続き救急医療を担いながら、新型コロナへの対応も行い、地域医療を守る使命を果たして参ります。

読者の皆さまにおかれては、やはり感染しない、させないということが重要ですので、皆さまの日常生活において、少しでもお役に立てることを願い企画させていただきました。

広報誌のバックナンバーはこちらから ▶



特集2
コロナ禍に
立ち向かう

運営 ・ 治療

医療現場、 戦い続けた500日

Special Talk 座談会 社会医療法人 協和会 加納総合病院

院長 (写真右下)

久保田真司先生
Shinji Kubota M.D., Ph.D.

内科 (写真左下)

酒井宣明先生
Nobuaki Sakai M.D.

内科 (写真左上)

森脇英一朗先生
Eiichiro Moriwaki M.D., Ph.D.

事務長 (写真右上)

西川照明
Mr. Teruaki Nishikawa

※本件の撮影及び取材は、十分な換気と、ソーシャルディスタンスを保った状態で実施しております。

昨年春から続く新型コロナウイルス感染症の蔓延。医療従事者は日々戦い続けてきました。最初に重点医療機関としての役割を担う加納総合病院の運営および診療体制についてお話を伺いました。

重点医療機関へ 素早い対応

新型コロナウイルス感染症に対するこれまでの取り組みについてお聞かせください。

西川事務長…昨年3月より、医療用陰圧テントを活用して、発熱患者対応と一般外来を分けて診療するというところからスタートしました。当院は救急指定病院ですので、救急で来られる患者さまのための病床確保も必要なことから、3つの急性期病棟から6床ずつと、HCU（高度治療室）から1床の計19床で運用しました。3つの病棟は陽性患者、疑い患者、治療を進めていく上での経過観察用に分けて対応していました。

当初は行政からの指示が遅く、とはいえ患者さまはすでに

溢れる状況となっていましたから、現場優先で対応を始め、大阪府へは理事長とともにこちらから説明にいかせていただいたというような経緯です。

その後、民間病院の中ではかなり早い段階で協力医療機関・重点医療機関に名乗りを挙げられました。その決断に至る経緯を教えてくださいませんか。



久保田院長・・重点医療機関への要請があったのは昨年10月。当時、新型コロナウイルスの感染者数が累計10万人前後、死亡者も2千人近くいるという状況でした。院内で検討して新型コロナウイルス感染症の診療体制の拡充が必要と判断し、要請を引き受けする決定をいたしました。診察を担当する内科のスタッフはこれまでも協力的に対応してくれていましたし、他の部署にも了承を得ることができ、対応することとなりました。

感染症専用の病棟として回復期病棟を充てることにしたことで、入院されている患者さまには移動していただく必要がなくなり、地域連携室等々のス

タッフにはかなり尽力していただいて、速やかに準備を進めることができました。

現場医療が ストップしないように

現場職員の方々は重点医療機関の受け入れに対してどう感じましたか？

酒井医師・・最初に受け入れについて聞いたときは、院内でクラスターを起こさないかと心配しました。感染者さまをお預かりするのはいいけれども、そのために他の患者さまの対応ができなくなってしまうので、現場医療がストップしないようにスタッフの感染を防ぐことを一番に考えました。

森脇医師・・新しい未知の疾患でしたので、確立された治療法がないということに不安がありました。入手する情報を頼りに、その時に一番良しとされる方法で対応するしかなかったものからです。症状が急変する患者さまも多くいらつしゃったので、対応が遅れないように、専従の当直医を設けて24時間対応できるように対策も施しました。

そんな中、大阪府からは重症受入病床を増やすよう要望があったと聞きました。どのように対応されたのでしょうか？

西川事務長・・逼迫した時期、行政の方から1床でもいいので病床を増やしてほしいという要請は毎日のようにありました。しかし、当院の場合は行政から指示を受けた患者さまの対応だけではありません。救急で運び込まれた方に発熱症状があった場合も対応しなければいけない。そのための病床も確保する必要があったことを説明し、理解していただくようにしました。一度は納得されるんですが、また依頼がくるという繰り返しでした。それだけ状況が逼迫していたということですが、なんとかご理解いただきました。

森脇先生は自らも新型コロナウイルスに感染された経験があり、復帰してすぐ、使命感から治療にあたっていらつしゃるとお聞きました。

森脇医師・・はい。重症化までには至りませんでした。が、いまだに嗅覚はしっかりと戻っていません。感染すると、何かしらの後



遺症が残る可能性の高い疾患です。感染して完全に回復するケースの方が少ないといっても過言ではないかもしれません。

酒井医師・・新型コロナウイルス感染症はただの風邪だという人もおられるようですが、長年医療に従事していて、インフルエンザが直接の原因で亡くなられたという症例はこれまでほとんど経験がありません。しかし、新型コロナウイルスに感染し、肺炎が悪化して亡くなられた方を見ました。感染者全員が重症になるわけではありませんが、可能性は誰にでもあります。感染しないことが一番です。もし感染したとしても適切な処置をして、重症化を防がなければいけない疾患だと思います。



ウイズコロナ環境で 自己防衛対策を

今後予測される状況を踏まえ、読者の皆さまにコメントをお願いいたします。

西川事務長…今後のワクチン投与で状況も変わってくると思えます。このところワクチンの供給が遅れており、現状では医療従事者と2回目接種の方のみを受け付けている状況ですので、まだ接種できていない50代以下の方の感染者が増えています。

酒井医師…半数以上の高齢者が2回接種を終え、統計では高齢者の感染がかなり減っているということなので、効果はあるのだと期待しています。

若年層の感染者が増えています。



すが、職域接種の担当医として現場に行き、いろいろ話を聞くと、若い方の中には「ワクチンを打ちたくない」という人もおられるようです。そういう人たちを説得するのが先決かもしれませんね。

森脇医師…そうですね、若い方にも「明日は我が身」という気持ちで、意識を持って行動してほしいと思いますね。正しく自己防衛をしていただけたらと願います。

久保田院長…医療側の視点からすると、新型コロナウイルス感染症の終息はまだないだろうと思っています。海外では、ワクチン接種がある程度行き渡ればマスクを外して生活しましょうという「ウイズコロナ」の動きがあるようですが、日本人の考え方としては「新型コロナウイルスがないう状態」を求める傾向にあると感じます。しかしそれはかなり難しいと思っており、病院としては継続して対策をとっていきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症患者が急増する中、皆さまが危険と戦いながら対応してくださっていたのだと、お話をお聞きして感じました。ありがとうございました。

座談会メンバー紹介



院長 久保田真司先生



総合内科部長 酒井宣明先生



内科医長 森脇英一朗先生



事務長 西川照明

※本件の撮影及び取材は、十分な換気と、ソーシャルディスタンスを保った状態で実施しております。

特集2
コロナ禍に
立ち向かう

看護



Special Talk 座談会 社会医療法人 協和会 加納総合病院

看護部長

越智公子
Kimiko Ochi RN

副看護部長

木原美香
Kihara Mika RN

ハイケアユニット師長

原口理美
Safomi Haraguchi RN

第5病棟師長

立川匡子
Masako Tachikawa RN

※本件の撮影及び取材は、十分な換気と、ソーシャルディスタンスを保った状態で実施しております。

医師とともに医療現場の最前線に立つ看護スタッフ。感染リスクという大きなプレッシャーと闘いながらの業務が続きます。そんな看護スタッフの現状についても伺いたいと思います。

スタッフ一丸となり 感染防止

最初に、皆さまのご担当についてお教えください。

木原副部長.. 病棟師長を兼務し、担当する病棟で新型コロナウイルスウィルス陽性患者さまの受け入れが昨年4月から始まり、ケアを担当させていただきました。院内感染者を出してはいけないという強い思いで、院内感染対策と完全防御の徹底に努めました。この7月からは副看護部長を専任しています。

原口師長.. 私は、HCU（ハイケアユニット）という高度急性期の病棟と救急外来を担当しています。HCUに疑い患者さまの病床がありますので、そちらの対応をしています。

大変な仕事ですが、大変なのは自分だけじゃない。病院全体、

スタッフ全員が同じ思いで一丸となつて取り組んできたと感じています。

立川師長.. 回復期病棟の担当をしていましたが、重点医療機関への対応として回復期病棟が陽性患者専門病棟となったため、現在は入院患者さまのケアを担当させていただきました。



安心ケアのために 不安と闘う

コロナ禍での医療従事者において大変だったことをお聞かせください。

越智部長・・第1波と呼ばれた昨年の3・4月は、物資確保の対応に追われました。マスクがない、手袋がない、防護服がない。休みの日にも探し歩くほど逼迫した状態でした。恐らく、この病院の看護部長も同じ行動を取っていたと思います。

そして、重点医療機関として新型コロナウイルス感染症の患者さまを受け入れることになった

際には、どこの部署で受け入れてもらうか、看護部長としてとても悩みました。スタッフみんな不安に思っていましたから。

立川師長・・私は、担当している病棟が受け入れ先となり、これまでと全く異なる状況に、まずは慣れることから始めなければいけませんでした。事故を起こさないようにという思いで必死でした。

原口師長・・新型コロナウイルス感染症の患者さまと一般の患者さまが交差することのないように、移動経路については特に注意を払いました。スタッフに関しても、疑い患者さまの担当看護師は、感染対策として一人で専任してもらいました。休憩も食事も一人で行動してもらうなどの対応で、他のスタッフとの接点を極力なくしました。

木原副部長・・そうですね、疑い患者さまの対応には気を配りました。高齢の方が多く、認知症の方もおられます。そういう患者さまには私たちの観察が大事になります。事故が起こらないように頻繁に病室に行き来しなければいけない。陰性とはつき

りわかるまでは、ベッドから離れることも、病室から出してあげることができない環境でしたし、しかも陽性の可能性がある限りは感染防御を怠れないという苦労がありました。

この経験を 今後活かして

これからの対応についてはどのようにお考えですか？

原口師長・・ワクチンに期待しています。そのワクチンの供給が現在ストップしている状況なので、若年層の感染が押さえ込まれるまでにはまだ時間がかかりそうだと感じています。

立川師長・・今回のことは災害レベルの出来事だと思っています。このような出来事に看護師として関わるのができたのは、貴重な体験だと感じています。そして、それは周りの支えがあつてこそ経験できたこと。職場として環境を整えてくださった部長や副部長、病院にはすごく感謝をしています。引き続き業務を全うし、この経験は後輩たちにも伝えていきたいと思っています。

木原副部長・・私は副部長職専



任になりましたので、少しでもスキルアップできるように、部長や担当看護師と相談をしながら進めていけたらと思っています。

越智部長・・社会は災害時にも対応ができる看護師を求めています。今回のような感染症の蔓延だけでなく、各地で地震や大雨の被害が起こっています。また違うウイルスが出てくるかも分からない。その時代時代にさまざまなことが起き、確実な対応が求められます。立川師長が言われたように、今回の経験を通じて学んだことをさらに自分たちのものにして、次に何が起きて

も投げ出さずに行動できる看護
師の育成に努めなければいけない
と痛感しています。
お話を聞きまして皆さまのご
苦勞を痛感いたしました。貴重
なお話をありがとうございます。



若い人たちも侮らないで！ 怖い、新型コロナウイルス感染症の重症化

Q 退院日が決まってから悪化することがあると聞きます。急変された患者さまの例をお聞かせいただけますか？

A 入院時から抗ウイルス薬とステロイドを使った治療を行います。使用期間が決まっていて、投与の終了が近づくると退院の相談が始まります。しかしこのタイミングに発熱、肺炎を起こして急激に悪化される方が少なくありません。そこから回復されても、急激な筋力低下で足が動かない、手が動かせないという後遺症が残り、リハビリが必要となります。
(回答 立川師長)



Q 第1波の頃のような「怖さ」が薄らいできているように思います。感染された患者さまの反応も変わってきていますか？

A 同じ人が何度も感染するわけではありません。感染患者さまは皆さま初経験で、すごくショックを受けられます。「あの時〇〇しなければよかった」と思う人が多いのが実状です。感染リスクの高い私たち医療従事者が、みんな感染するかといえばそうではありません。自宅から電車で通勤し、病院で業務をこなしても感染しないのは、感染防止に対する意識が高いからだと思います。改めて、手洗いやマスクの必要性を正確に伝えることも大切なのかもしれません。
(回答 越智部長)



※本件の撮影及び取材は、十分な換気と、ソーシャルディスタンスを保った状態で実施しております。

特集2

感染防止対策室編

「あなたの周りにハイリスクの方はいませんか？」 ひとりひとりが自己感染対策を

感染防止対策室とは、その名の通り、感染防止に関するシステムとルールを作る部署です。例えば今回の新型コロナウイルス感染症の場合、基本的にはマニュアルの作成から専用病床・専用病棟の設置、運営管理などを行います。当院では、行政とのやりとり、陽性患者の受け入れ対応も私が担当しております。皆が一丸となって、協力しあって治療・看護に取り組んでいます。

第1波が始まったとき、今思えば、未知の感染症に対して「正しく恐れること」ができない職員が多かったです。

虚偽の情報が錯綜したこともあり、院内から不安の声があがったのも事実です。しかし、本来、感染様式に準じた対策を的確に行っていれば受け入れは問題なく可能です。病院職員に感染対策を説明し、理解してもらうことが最初の任務でした。

今回の新型コロナウイルス騒動により、民間病院は存立の危機を迎えました。第1波の当初は、防衛手段として新型コロナウイルス感染者や発熱患者の受け入れを行わないという医療機関も多くありました。しかし、発熱患者の診療を止めてしまうと、救急での肺炎患者を受け入れられないこととなります。また、肺炎患者を受け入れたとしても、一般的な細菌性肺炎なのか、あるいは新型コロナウイルスの感染者なのかわからないまま診療しなければいけません。当初、PCR検査を行政委託できる医療機関は、「帰国者・

接触者外来と同様の機能を有する医療機関として都道府県等が認めた医療機関」において検査を実施するとされました。つまり、安心して患者さまを診療・治療するためには発熱者や陽性者を受け入れる必要があったわけですね。

そこから約1年半。周囲の方から「いつ終息しますか？」とよく聞かれますが、私は「終息はしないでしょう」と答えています。大阪府は現在、陽性者のうち7割以上は40代以下といわれています。入院患者、重症患者の大半を占める高齢者は優先的にワクチンを打っているため、入院患者数、重症患者数は減りますが、40代以下の人達にワクチン接種が行き届くまでは陽性者の数はそこまで極端には減らないでしょう。しかし若い方の中にはワクチンの副反応に恐怖を感じ、打ち控える人も増えているようです。「あなたの周りにハイリスクの方はいませんか？」とお尋ねしたい。自分自身が重症化しなかったとしても、あなたの周りにはいる人、大切な人に、高齢者や基礎疾患などハイリスクを抱える人はいないでしょうか？ 自分のためだけじゃないということを意識して行動していただけたらと思います。



感染管理認定看護師

北林礼士

感染管理認定看護師とは、疫学、微生物学、感染症学、関係法規などに関する専門知識を基盤に、患者様・来訪者・医療従事者・施設環境を対象に、感染のリスクを最小限に抑えるために、効率的な感染管理を計画、実施、評価し、提供するための重要な業務を担います。



各科診療医一覧表

加納総合病院

科	診療時間	月	火	水	木	金	土		
内科	午前	1診	9:00~12:45	久保田	久保田	酒井	原	西川(浩)	徳山・酒井
		2診	9:00~12:00	加納	森脇	原	吉川	下田	平尾・別所
			12:00~12:45	酒井					
	3診	9:00~12:45	中川 ※糖尿	岸野	高嶋・笹川 ※糖尿	中川 ※糖尿			
	午後	14:00~16:45	成・西尾	西口・徳山 ※糖尿	榎本	西口・下田 中川 ※糖尿	中岡・西川(浩)		
	夜診	18:00~19:45	交代	森脇	原(交代)	酒井	吉岡・高嶋		
外科	午前	9:00~12:45	川崎	矢野	矢野	田中	川崎	交代	
	午後	14:00~16:45	向井	OP	矢野	向井	川崎		
	夜診	18:00~19:45		向井・田中					
整形外科	午前	1診	9:00~12:00	和田	森本	岡吉	羽山	和田	納田
		2診	9:00~12:00	納田	納田	下(予約)	下(予約)	雑賀	雑賀
	夜診	18:00~19:45	雑賀・和田	和田・雑賀	納田	羽山	下		
脳神経外科	午前	9:30~12:00	中澤	OP	黒田	安田	中澤	安田・藤黒田・福村 (交互) (予約)	
	2診		麓(予約)			福村	麓(予約)		
循環器内科	午前	1診	9:00~12:00	西川(永)	谷浦	谷浦	西川(永)	谷	
		2診					ルミカ・桂		
	午後	14:00~16:45		坂田	谷浦	谷	交代		
夜診	18:00~19:45	谷							

科	診療時間	月	火	水	木	金	土
脳神経内科	午前	9:00~12:00	米延	白石	村瀬		望月・権
	午後	14:00~16:45				権	長野
形成外科	午前	9:00~12:00	奥野	宇根	奥野	宇根・奥野 (交互) (予約)	宇根
	午後	14:00~16:00	宇根	奥野	奥野	OP	宇根
眼科	午前	9:00~11:00	近江	高橋	近江	藤原	近江
	午後	14:00~15:00	近江	検査	OP	検査	検査
耳鼻咽喉科	午前	10:00~12:45	全田	全田	全田		全田
泌尿器科	午前	9:00~11:30	坂元	坂元	検査	坂元	坂元
皮膚科	午前	9:00~12:00					宮本
	午後	13:00~16:00	谷口		北		
婦人科	午前	9:00~11:30	堀江	芝本	堀江	芝本	堀江
小児科	午前	9:00~12:30	真鍋	真鍋	真鍋	河村	真鍋
	午後	14:00~16:30	真鍋	真鍋	真鍋		真鍋

※詳しくはホームページを参照ください。

令和3年8月1日時点

北大阪病院

科	診療時間	月	火	水	木	金	土		
内科	午前	9:00~12:30	山元	山元	谷・西川 (交代)	山本	谷浦	森脇・藤原 石井・岡田・交代	
	午後	14:00~17:00	井上	高嶋	山本	大川	石井(秀)		
	夜診	18:00~19:45	西良	藤尾	川田	大川	週代わり		
外科	午前	9:00~12:30	藤尾	藤尾	藤尾	藤尾	藤尾	藤尾	
	午後	14:00~17:00		※急患のみ受付					
	夜診	18:00~19:45		藤尾					
整形外科	午前	1診	9:00~12:30 (9:30)	目黒	高見	目黒	五島	目黒	高尾
		2診		奏		全本		平井	
	午後	14:00~17:00	下		下		下		

科	診療時間	月	火	水	木	金	土
脳神経外科	午前	9:00~12:30	安田	安田	安田		佐藤
	午後	14:00~17:00	※急患のみ受付		※予約のみ		※急患のみ受付
皮膚科	午後	15:30~16:30					高田
循環器科	午前	9:00~12:30	岡田		谷・西川 (交代)		谷浦
	午後	14:00~17:00	井上				奥野
泌尿器科	午後	14:00~17:00			坂元		
リハビリ	午前	9:00~12:00	○	○	○	○	○
	夜診	18:00~19:45	○		○		○

※詳しくはホームページを参照ください。

令和3年8月1日時点



社会医療法人 協和会

- 加納総合病院**
〒531-0041 大阪市北区天神橋7-5-15 TEL.06-6351-5381(代)
- 北大阪病院**
〒532-0004 大阪市淀川区西宮原2-7-17 TEL.06-6395-1601(代)
- 北大阪クリニック**
〒531-0041 大阪市北区天神橋7-6-21 TEL.06-6351-2228(代)
- 北大阪訪問看護ステーション**
〒531-0041 大阪市北区天神橋7丁目5-21 大新ビル 2F
TEL.06-6357-7893
- 淀川介護老人保健施設 ハートフル**
〒532-0023 大阪市淀川区十三東5-3-29 TEL.06-6302-8686
- 伏尾クリニック**
〒563-0011 大阪府池田市伏尾町12-2 TEL.072-754-2838

社会福祉法人 大協会

- 特別養護老人ホーム ハートフルふしお**
〒563-0011 大阪府池田市伏尾町12-1 TEL.072-754-2901(代)
- 特別養護老人ホーム ハートフルこうだ**
〒563-0043 大阪府池田市神田2-6-7 TEL.072-750-0810(代)
- ハートフルかのう**
〒531-0062 大阪市北区長柄中1-1-21 TEL.06-6354-1108(代)

編集後記

本企画段階では考えられなかった第5波襲来です。暑い中ですが、基本となるマスク着用の徹底をお願いいたします。